

福祉常任委員会

視察日：平成22年11月17日～19日

視察先：愛知県半田市、岐阜県瑞浪市



障がい者支援センターを視察(愛知県半田市)

障がい者支援センターで総合的支援
【愛知県半田市】半田市は、国が定める自立支援給付と、市町村がサービス体系を設ける地域支援事業の2つある中で、この仕組みをより効果的に利用してもらうために障がい者支援センターを開設するなど、相談支援事業を充実させています。半田市社会福祉協議会が、市から障がい者相談事業を受託、センターを開設し、窓口や電話での相談にとどまらず、

関係機関を含めた総合的な支援をしています。また、個々の課題等は自立支援協議会が活動されており、障がい者の方々の幸せな暮らしを目指し、ご努力されていることに深く感謝しました。
【岐阜県瑞浪市】瑞浪市は、幼稚園児および保育園児などの合同活動事業の規制緩和がなされたことを受け、平成15年に幼児教育特区の認定を受け、5歳児を対象に幼稚園・保育園で就学前の合同活動を実施していました。
さらに今後は、市内全域において教育環境整備の課題をクリアして3歳児4歳児の幼保一元化を図り就学前教育として幼児教育の充実を図りたいとしています。さらには、乳児から中学生までの医療費無料化など子育て支援対策にも大変力を入れています。 (委員長 中村 勝吉)

産業建設常任委員会

視察日：平成22年11月17日～19日

視察先：熊本県南小国町、人吉市



黒川温泉の観光施策についての視察(熊本県南小国町)

温泉街を一つの旅館とする発想力
【熊本県南小国町】南小国町の「黒川温泉」は26軒の温泉宿。昭和50年代、経営が厳しい中、一軒だけ繁盛している宿があり、それが露天風呂と知り、みんなで露天風呂を造り始めたが、2軒だけ立地上無理だったことから考え出されたのが「入湯手形」でした。様々な露天風呂をほどこせることが人気を呼び、今では年間100万人もの方が訪れる温泉宿に。露

天風呂の次は植樹。23年間で1万5千本を植え、黒川温泉の雰囲気醸し出しています。
地域力が発揮されれば行政も支援する好例として南小国町の「街並み環境整備事業」が挙げられます。道路や堤防、外灯、橋、集会施設などが温泉地の風景に溶け込むように整備されていました。看板はもちろん、建物の壁の色や屋根の色なども統一され、宿の一つひとつがお部屋で、道や橋が廊下と例える「黒川温泉は一つの旅館である」との考え方は大いに参考になるものと感じました。
地域性を生かし広域で取り組む農家民宿
【熊本県人吉市】人吉市では、人吉球磨地方10市町村で森林の郷農林業元気特区を取得し、都市と農村の交流事業に取り組みしていますが、広域で取り組むメリットと特技を生かした農家民宿の姿は参考にすべきものと思いました。 (委員長 近村 晴男)



まち並みウォッチングで自分たちの住むまちを知る(花巻中央地区コミュニティ会議)

まち並みウォッチングで自分たちの住むまちを知る(花巻中央地区コミュニティ会議)
「花巻市コミュニティ地区条例」案へと題名を変更した理由は何か。コミュニティ地区長を市特別職員とし、報酬を支払うこととしていたが、削除した理由は何か。指定
A(市長、まちづくり部長) 条例のねらいをより明確にし、条例全体の内容を整理するとともに、題名も市民に分かりやすくするため修正した。地域での意見交換会で、市から委嘱されると対等な関係でなく、参画協働の趣旨に合わないとの意見があり、地区長の表現を見直した。各コミュニティ会議との協議を重ね、指定管理についておおむね受託しただけの方向にあるが、各地区内の合意形成を図る必要があつて、協議が整った地区から施行できるように附則に規定した。

【Q】当初示していた(仮称)地域の自立と協働の



櫻井 肇 議員

「合衆市」構想について 各地区内の合意形成を図る

推進に関する条例」案を「花巻市コミュニティ地区条例」案へと題名を変更した理由は何か。コミュニティ地区長を市特別職員とし、報酬を支払うこととしていたが、削除した理由は何か。指定

管理者としていた振興センターおよび他の施設の管理並びに職員の雇用をできないコミュニティ会議があつてもいわば「見切り発車」で条例を定めようとする理由は何か。
A(市長、まちづくり部長) 条例のねらいをより明確にし、条例全体の内容を整理するとともに、題名も市民に分かりやすくするため修正した。地域での意見交換会で、市から委嘱されると対等な関係でなく、参画協働の趣旨に合わないとの意見があり、地区長の表現を見直した。各コミュニティ会議との協議を重ね、指定管理についておおむね受託しただけの方向にあるが、各地区内の合意形成を図る必要があつて、協議が整った地区から施行できるように附則に規定した。

文教常任委員会

視察日：平成22年10月17日～19日

視察先：福岡県福岡市、岡山県玉野市



特別支援学級の子どもたちの授業視察(福岡市立舞鶴中学校)

個性の違いを知り、共生の在り方を考える
【福岡県福岡市】特別支援学級に通う生徒が全体の1割を占める福岡市立舞鶴中学校では、年度当初、各学年を対象に「理解学習」を行っています。「障がい」について正しい知識を学ぶと同時に、個性の違いを知り、共生の在り方を考えるというもので、身近な違いを通して、他者とのかわり学を学ぶ授業です。「理解学習」は全3時間を設定。学年ごとにテーマを設け

初めの2時間は学年ごとに行い、最後に学校全体で意見交換します。学習を終えた後、「理解学習」の感想を1つの冊子にまとめています。「学校が楽しい」と笑顔で登校しているのが安心しています。舞鶴中学校に入学できて本当に良かった」と家庭訪問で何人もの保護者の方が話されていることを伺い、これは舞鶴中で理解学習に取り組む、みんな考えてきた伝統の成果と感じ参考にしたと思います。
家庭の教育力向上と親の役割の重要性
【岡山県玉野市】「親学」啓発パンフレットは、すべての教育の出发点である家庭の教育力向上および親の役割の重要性の再認識を図るとともに、親としての在り方、子育ての楽しさについて学ぶ「親学」の啓発を進めるため、パンフレットを作成するとともに、これを活用し「親学」の推進を図っていました。 (委員長 高橋 浩)